



研究テーマ

1 専門分野に関する英語教育・英語学習の有効性

2 グローバル人材育成するための異文化理解・異文化コミュニケーション

3 ひとり親家庭等学習支援ボランティア活動



本部 エミ

ほんぶ えみ
国際連携機構
多言語多文化教育研究センター

講師

キーワード

ESP、英語教育、
英語学習
異文化理解
異文化コミュニケーション
タンデム学習
ひとり親家庭
学習支援

特許情報・
共同研究・
応用分野など

Intercultural
Communication

International
Telecollaboration

Tandem Language
Learning

研究概要

- 1 学生の専門科目分野に関連がある教材を用いて、英語教育・英語学習の有効性を検討する。
- 2 国内外の協定校とのオンライン交流を行う。
- 3 貧困の連鎖を断ち切る為の学習支援を行う。

1 専門分野に関する英語教育・英語学習の有効性

ESP (English for Specific Purposes)とは、専門分野に特化した英語の文章を読み書きするためのアプローチのことです。宮崎大学は英語授業の ESP 化及び国際化に取り組むため、2014年より基礎教育新カリキュラムを発足しました。専門領域に使用される英語教育・英語学習方法の有効性を検討し、学生の英語に対する勉強意欲を向上させるための研究に取り組んでいます。

2 グローバル人材育成するための異文化理解・異文化コミュニケーション

異文化理解・異文化コミュニケーションを深めるため、留学生や国内協定校の留学経験者等との”On-Campus!留学“の課外英語活動を行っています。

日常英会話を自然な感覚で身に着ける機会を提供するため、金曜日に「ランチタイムEnglish Café」を開催しています。

授業に日本語を学習している留学生とのタンデム学習を導入しています。また、年に数回、国内外の複数の協定校とのオンライン交流を行っています。学生たちは、相互に英語によるプレゼンテーションとQ&Aを行っています。

3 ひとり親家庭等学習支援ボランティア活動

貧困の連鎖を断ち切る為の学習支援事業として、平成27年4月に、宮崎市のNPO法人「ままのて」事務所にて無料の学習支援に着手し、同年9月には、宮崎大学でも学生支援を開始しました。リトルティーチャーズというサークルを立ち上げ、本学の学生・院生ボランティアによる「夏休み宿題バスターズ」、アメリカ人留学生による「英語であそぼう」という活動の他、食育や進路相談等も行っていきます。

ホームページ

技術相談に応じられる関連分野

メッセージ